

(西暦) 2023 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

助産師のワーク・エンゲイジメント
～医療機関と地域で働く助産師に焦点を当て～

学位の種類： 修士（看護学）

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 21894707

氏 名：吉田 由美

(指導教員名：安達 久美子)

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

【目的】

医療機関で働く助産師と地域で働く助産師のワーク・エンゲイジメントを明らかにすることである。

【方法】

一都三県の医療機関で働く助産師、地域で働く助産師を調査対象とし、無記名自記式質問紙、及び「日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度短縮版(以下、UWES-J)」、「特性的自己効力感尺度」を用いて調査を行った。

【結果】

医療機関 109 名、地域 65 名の 174 名を分析対象とした(有効回答率 72.5%)。医療機関群は 30 代が 49.5%であったが、地域群は 40 代・50 代が各 40%以上を占めていた。医療機関群の 70%は入院中の妊婦ケア・褥婦ケア、分娩介助に携わり、地域群の 70%が携わる業務は産後ケア、母乳育児支援であった。特性的自己効力感尺度は 2 群間で有意な差はなかった。助産師としての価値観、専門性、自律性について、地域群が有意に高かった。UWES-J 合計得点の $M(SD)$ は、医療機関群は 28.7(7.9)、地域群 38.9(7.9)であり、有意に差があった。UWES-J 項目平均・下位尺度（活力・熱意・没頭）項目でも地域群が医療機関群に比べ有意に高かった。

【考察】

医療機関群と地域群の年代別 UWES-J 合計得点、項目平均得点、下位尺度 3 項目の得点では全て地域群が高く有意差が見られた。本研究対象者の得点は、日本人女性や看護師を対象とした先行研究と比較し高い得点を示した。その要因には、助産師としての専門性を誇りに思っていることが影響していると考ええる。そして、地域群では助産師としての価値観にあったケアが提供できること、専門性や自律性が医療機関群に比べ保たれていることがワーク・エンゲイジメントに影響したと考える。また、医療機関群の助産師の 7 割が「分娩介助」に関わっているが、地域群の主な業務は「母乳育児支援」「産後ケア」であり、異なる役割の中で助産師はやりがいを見出していた。

【結論】

医療機関群と地域群は、異なる役割の中で高いワーク・エンゲイジメントを持ち活動している。そして、医療機関群に比べ地域群が高いワーク・エンゲイジメントを維持しているのは、助産師としての専門性や自律性が保たれていることが影響していると考ええる。